



どくしょ



言語的思考へ

竹田 青嗣著

啓書房
2200円

動物化するポストモダン

東 浩紀著

講談社現代新書
660円

〈民主〉と〈愛国〉

小熊 英二著

新曜社
6300円

竹田青嗣の『言語的思考へ』。レトリックを振り回すだけで現実と向きあわず、マルクス主義が退潮したあとの混乱を増幅したポストモダン思想。そ

東京工業大学
大学院教授

橋爪

大三郎

って検証する。

フッサール現象学が、著者の手にかかると、言語を介して人間同士が信頼しあう社会公共の思想としてよみがえる。バブルから空白の十年をへて、人びとがこの国の進路を切り拓いていくための指針となる、重量級の業績だ。

東浩紀『動物化するポストモダン』ゲームの世界を素材に、大きな物語を信ずるでもなく、代わりの物語を見つけてでもない若者たちが、分散した情報のおかげで中心のないデータベース的な世界を浮遊する様子を描写。実体的ない欲望しか信じられない「動物化」するインターネット世代の現実を、説得力をもって提示する。

小熊英二『〈民主〉と〈愛国〉』。敗戦から一九七〇年までの時期に、日本人が何を感じ何を考えたかを、膨大な言説を整理するなから検証する。もはや忘れられた戦後の実態を発掘し、私たちが知っている「戦後」のイメージを覆して行く。

さまざまな論者が戦争体験をどのように踏まえたかを、特に丹念に取り出している。ナシヨナリズムの再構築が試みられているいま、必ず参照すべき一冊となるはずだ。

の誤りの根本を、
デリダのフッサール批判にさかのぼ